2023年7月13日（木）第9回オレンジクロスシンポジウム
『コンパッションに支えられるまちを考える』

第1部
コロナ禍におけるケアの揺らぎ
－クラスター発生をめぐる高齢者介護施設職員等の語りから－

島薗洋介（大阪大学グローバルイニシアティブ機構 講師）
堀田聰子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 教授）

第1部の趣旨と構成

新型コロナのクラスターを複数回経験した介護施設の職員の語りから、職員と入居者、同僚、家族、地域との「間」に生まれたものを見つめます。

1. 本日の報告に関連する調査等の実施概要
2. 高齢者介護施設A及び当該施設における新型コロナのクラスター発生の概要（2020年夏・2022年2月）
3. いくつかの「間」をとりあげて
   - ◆施設・職員と地域社会
   - ◆「職場」と「家族」
   - ◆施設の内側
4. おわりに

本日の報告に関連する調査等の実施概要

- 位置づけ：一般財団法人オレンジクロスを事務局として、2021年度に開始した「コンパッションに満ちたまち」検討事業の一環として、新型コロナウイルス感染症×介護を切り口とするフィールドワーク等の実施と当事者の語りの蓄積・検討を実施（進行中）。
  https://www.orangecross.or.jp/project/cc/index.php
- 目的：新型コロナの陽性者が発生した高齢者介護事業所等の職員及び関係者の語りを収集・蓄積するとともに、その経験と応答について、検討を加える。
- 本日の報告（高齢者介護施設A）に関連する調査の実施時期・調査内容と方法・調査対象

（2021年1月／2020年夏のクラスター発生時の経緯と対応等に関するオンラインインタビュー／施設長・事務長他）

① 2021年7月／　〃　／施設長・事務長（2020年夏当時）

② 2021年9月／2020年夏のクラスター発生時の経験に関する現地調査（インタビュー・見学・資料収集）／施設長・施設職員1人、市役所4部局、市社協、自治振興会、自治会他

③ 2022年2月／現地で2020年夏のクラスター発生時の振り返り個人ワーク（IRIS）と共有／施設職員3人

④ 2022年4月／2022年2月のクラスター発生時の経緯等に関するオンラインインタビュー／施設長

⑤ 2022年4月～5月／2020年夏のクラスター発生時の振り返り個人ワーク改訂版（IRIS）／施設職員12人がなんらか参加

⑥ 2022年5月～7月／2回のクラスター発生時の経験に関するオンラインインタビュー／施設職員11人

お忙しいなか調査にご参加・ご協力くださいました関係者の皆さまに深く御礼申し上げます。

高齢者介護施設Aの概要

- 近畿地方にある特別養護老人ホーム

	フロア	利用定員	職員配置
ショートステイ	3階	20人	介護職員
特別養護老人ホーム	3階（2ユニット） 2階（4ユニット）	72人	介護職員
デイサービス	1階	30人	介護職員 送迎職員
ケアプランセンター	1階		ケアマネジャー
事務所	1階		看護師 相談員 事務 清掃

高齢者介護施設Aにおける2020年夏の新型コロナ・クラスター発生

- 当該都道府県内の介護関連施設における**初のクラスター**
- 入居者・利用者、職員をあわせて**31人の陽性者**が発生（**死亡０**）
- 陽性判明翌日までに、**全入居者・ショートステイ利用者にPCR検査**実施、ショートステイの新規利用者**受入休止**、デイサービス**営業休止**措置
- 2階の介護職員及び全看護職員が出勤停止となるなか、法人内からの応援と一部業務縮小で人員不足に対処、DMAT等の支援も得て収束（最初の陽性者判明から18日目でレッドゾーン解除）
- **当該都道府県における応援派遣事業、代替サービス事業の制度化の契機に**

	フロア	利用定員と感染状況	職員配置と感染状況
ショートステイ	3階（新規受入休止）	20人	介護職員　**2人**陽性
特別養護老人ホーム	3階（2ユニット） 2階（4ユニット）	72人 2階**15人**陽性	介護職員 2階全員出勤停止・**8人**陽性
デイサービス	1階（休止）	30人　休止中に自主的に医療機関を受診した**1人**のみ陽性	介護職員 送迎職員
ケアプランセンター	1階		ケアマネジャー
事務所	1階		看護師 相談員 事務 清掃 全員出勤停止・**5人**陽性

高齢者介護施設Aにおける2022年2月の新型コロナ・クラスター発生

- 当該都道府県内でも2022年1月以降「オミクロン株が猛威をふるい、**どこの施設や事業所も大混乱**」
- 入居者、職員をあわせて**10人が検査で陽性**と判明（うち**入居者1人が死亡**）、他に入居者の有症状者が少なくとも11人
- 職員と2人暮らしで末期がん・在宅療養中の**同居家族が陽性となり死亡**
- 保健所からの一斉検査の提案には「しない」と返事、1年半前のクラスターを経験した職員が主となって対応、ケアマネジャー・家族にショートステイの**利用控え**を依頼
- 最初の陽性者判明から17日目でレッドゾーン解除

	フロア	利用定員と感染状況	職員配置と感染状況
ショートステイ	3階（利用控え依頼）	20人	介護職員　**1人**陽性
特別養護老人ホーム	3階（2ユニット） 2階（4ユニット）	72人　3階**4人**陽性（ほか11人有症状） 2階**2人**陽性（1人入院先で死亡）	介護職員　3階**1人**陽性
デイサービス	1階	30人	介護職員 送迎職員
ケアプランセンター	1階		ケアマネジャー
事務所	1階		看護師 相談員 事務 清掃　**2人**陽性

高齢者介護施設をとりまく関係者とさまざまな「間」

施設と　入居者、ショートステイ・デイサービス・ケアプラン利用者、その家族
職員、その家族
近隣住民
法人内の他事業所
他の介護保険事業所等（利用者の併用事業所、それ以外の事業所）
委託業者、納品業者
指定・監督者
保健所、医療機関

職員と　家族　－家族の勤務先、学校、保育園、利用する介護等の事業所等
近所
友人

施設内　職員同士
上司・部下、同僚、ユニット、職種、部門
出勤状況：出勤（レッドゾーン／グリーンゾーン）・出勤停止・出勤自粛
感染状況：陽性・みなし陽性・濃厚接触・いずれもなし
感染対策に対する考え方：感染予防重視and/or省力化志向－QOLの維持向上重視
入居者同士
感染状況：陽性・みなし陽性・濃厚接触・いずれもなし

施設と地域社会－2020年夏　施設提供資料から

「施設Aに関わる利用者や職員やその家族は、社会から切り離される」*ということが実際に起こっています。濃厚接触者でもない職員の家族が施設Aに勤めているから、父親が出勤させてもらえない。子供が学校や習いごとに行けないということが、現在も起こっています。もし、施設Aで働いていることが知られたら、近所の人に何と言われるか、住み続けられるだろうかという不安を抱えて生活している職員もいます。この問題は、施設がどうこうすることができない問題です。*

出所：最初の陽性者判明から1週間後に施設長・事務長が作成した文書「新型コロナウイルス感染症のクラスター初期対応について」

新型コロナウイルスの3つの顔

出所：2020年冬の感染症対策研修会での施設長・事務長ご講演資料「新型コロナウイルス感染症への対応のポイント」囲みは発表者

- この“感染症”の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながることです。
- 不安や恐れは身を守る為に必要な感情ですが、私たちから力を奪い、冷静な対応ができなくなることもあります。
- それぞれの立場でできることを行い、みんなが一つになって負のスパイラルを断ち切りましょう。

日本赤十字社HPより「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」
http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326_006124.html 最終アクセスR2/12/6

施設と地域社会－2020年夏　施設提供資料から

利用者家族、職員、職員家族、他事業所からの声・電話等

*施設Aを使っていたというだけで**白い目でみられる***［SS利用者家族］

*自宅に保健所がPCR検査をしにくるのが**近所にバレたら村八分**にされる*［DS利用者家族］

*子どもが学校で**いじめられないか心配***［職員］

*施設AのDSやSS利用者の**サービス利用は控えてほしい***［他事業所］

***PCR検査を受けないと他のサービスを使わせてもらえない**と言われた*［SS利用者家族］

***他のサービスも利用できない。小さな子もいる。仕事にも行けない**で困る。補償はしてくれるのか*［DS利用者家族］

*濃厚接触者でもないのに、**家族が職場や学校に来ないように**言われる。**子どもを預かってもらえない***［職員］

陰性証明がないと出勤できない**ので**PCR検査を受けさせてほしい［職員家族］

***勤務先からの指示で、経過や現状を詳しく教えてほしい。**できれば**出勤しなくてよいように**してほしい*［職員家族］

*施設として全体に（検査）せえへんの？**事業所の責任と違うか。**保菌いてるかもしれんやんか。にっちもさっちもいかへんやんか。**おたくの奥さん施設A勤めてますよね。そんななかで生活せなあかん**とわかってほしいわ*［濃厚接触者ではない職員の家族］

*施設Aのケアマネがきてから咳が出るが、**うつったのではないか。**施設の構造はどうなっているか*［他事業所］

地域住民等からの声・電話等

小さい子がいるので心配**で電話。陽性の人はどうなっているか、濃厚接触者は出勤しているか。働いている職員が買い物とかに行くことはあるか。**感染したら心配なので、出歩かないようにしてもらいたい［地域住民］

***自分が感染したら**どう責任をとってくれるのか*［不明］

***地域の人はみんな不安**に思っているのに、何も感じてないやろ*［不明］

*飲み歩いたり旅行に行っていた職員がいるのではないか。**職員のプライベートまで管理していたか。**なぜ新型コロナが施設に入ってきたのか。これからどうしていくのか*［テレビを見た市内で仕事をしている人］

*施設でこんなことを起こすとは、**年寄を相手にする仕事なのに感染対策はしっかりできていたのか***［不明］

*市内でそれほど感染者が出ていることにびっくりして不安になっている。**こんなことになったことをどう思っているのか***［県の発表を見た市民］

出所：施設Aが各部署に寄せられた電話等をまとめた資料

出所：施設A提供資料

＜施設＞と地域社会－2020年夏　職員の語りから

入居者家族

- *その当時、もう未知の感染症やったので。要は**どうやって感染して、どうやって治っていくのかとか。それで治療内容がどうなって、実際に元の健康状態に戻れるのかっていう質問**がね。ほとんどの家族さんが、聞いてこられたんですよ。**当然ことながら、私らでは答えようがない**（略）今みたいに、もうある程度、みんなが新型コロナに対しての知識があるようなときじゃなかったので。どっちかって言ったら、**もう被害者と加害者っていうような関係**みたいに、なってましてね*［相談員］

- *いちばん大変やったのが、初日にいったん発熱とかの症状がないので今のところ心配がないっていう対象者の何名かが、陽性に転じたっていうパターン。そういう家族さんの話の受け止めをするのに、やっぱりけっこうたいへんやった（略）。**なんでこうなったんやって説明を求める**家族さんもおられました*［相談員］

在宅の利用者家族

- *利用者さんの家族さんとかからも、**「ちょっと来ないで」っていうような対応**を、されたこともありますし（略）やっぱり私もそういう気持ちで行っていたので、過剰に受け止めてるのかもしれませんけど。**なんかばい菌君じゃないんやけど**って思いながら*［CM］

- *責められることはなかったんですけれども、待っておられたので、**なんとかしてあげたいとは思うんですけど。その状態で受けてくれる事業所が、まずいなかった***［CM］

納品業者

- *「**一回起こしたからには、そんなとこになんか、納品なんか行けるかいな**」「今まで行ってた人が、大丈夫かどうかとか分かれへんけど、どうしてくれるんや？」みたいなぐらいの感じで、ちょっと本当**怒鳴りつけるような***［管理栄養士］

＜職員＞と地域社会－2020年夏　職員の語りから

- *ここの施設に働いてるっていうだけで、やっぱり**そういう目で見られる**っていうんですかね。やっぱり嫌ですよね*［ユニットリーダー］
- ***周りからどう思われるか**とか、**人にどれだけうつしてるんやろか**とか、そういう**不安**があったんですけど*［ユニットリーター］
- ***結果的には何もなくて、大丈夫だったんですけど**。同じ地域内で、どこかの学校の先生の旦那さんだか出たときに、すごい近所からすごい見られたりとかして、引越しも考えてるはるみたいなことを。本当か分からないですけど、聞いたりとかもしていて*［相談員（当時）］
- ***回覧板で「コロナの陽性の人がいはるから**（ラジオ体操を）中止します」ってその方（DS利用者）の家にも回ってきて*［DS職員］。
- *ニュースになったとたんに、**保育園の方から休むように**って、ようあったじゃないですか。そういうこと。**なんかばい菌扱い**されたみたいな感じの子たちも、何人もいました（略）**私そういうので、何かあったかって言われると、ほとんど経験してないんで***［ケアワーカー］
- ***陰性やったのに、なんで（他の施設に勤務する妻が）２週間自宅待機にならなあかんの？**みたいな感じでは、思ってましたね（略）言い方悪いですけど、**ばい菌扱いじゃないですけど、そういう感じで見られてる感じ**はするとは（妻が）言うてましたけど*［副主任］
- ***父親がデイケアを利用してますもので、そこは休んでくださいって言われました**（略）なんでそこまでされなあかんのかなっていうのは思いましたけど（略）もうじゃあ来ないでっていう感じで、ちょっと辛かったですけど*［CM］
- *クラスターが終わった後でね（略）「参加しても大丈夫ですか？」っていうことを、とりあえず許可を得るっていうところから、まずスタートですよね（略）場所によっては、**ちょっと嫌がられるっていうか。結構人から距離を取られる感じ**があったので、そこのクラブには、もう出ないっていうかたちに*［サブリーダー］
- *LINEとかで、「どうなってるの？」みたいなのが、結構聞かれたりとかはしてたんですけど。**風評被害っていうよりは、心配とかで聞いてきただけ**かなっていうの*［副主任］
- ***家の中で、ウイルス扱い**されてましたね。極力近づいて来なかったです*［ユニットリーダー］
- *家族はね、そんなに別に。（略）私からうつって、主人は同じように入院したんです（略）**全然なんか主人はもう、「そんなコロナなんかどこにでもいるし、しゃあないやろ」みたいな感じ**で思っていたので*［看護主任］
- *うち、母親がですね、看護師してまして。むしろうちの母親も、そういうリスクが高い場所で働いてるので。父親もただ、陽性とかが出た場合は、出勤停止というか。そのあたりのことを、職場の方に連絡しないといけないし、くらいの感じで言ってたので。**そのへんの理解は、すごい助かってましたね***［管理栄養士］

＜施設＞と地域社会－2022年2月　職員の語りから

入居者家族

- *１回目のあいまいな回答ではなくて（略）**症状によって、病院に行かれるか、施設で様子を見るか。施設で様子を見る場合には、こういう対応をさせてもらってって、説明ができました**ので。そこはもう、家族さんの中での受け止めっていうか、受け入れは早い（略）ほんとに、**初めの教訓が生きてきたな**というところですね。何を家族が、情報として欲しているのかというところ。やっぱりこう、どううまく伝えられるかっていうのを、実践できたのかなと思っているので*［相談員］

- *１回目の初回のクラスターとの大きな違いに関しては、**家族が施設の大変さを、ようよう分かってくれてはった**というところですかね（略）２回目のときは、施設の職員に対してのねぎらいが、始めに出てくるとか。そういう違いが本当にあったんじゃないかなと思います*［相談員］

- *施設の中では、入居者の方に感染させないように（略）もう言うたら、**できる限りのことをしてきたっていう自負**はあるんです。なので、その上での感染の方については、もう結果こうなってしまいましたけど、「こういうフォローをしていきます」っていう言い方に変わりましたね。（略）**１回目に、申し訳ない、どうしようっていうところとの、大きな違い**やったんじゃないかなと思ってます*［相談員］

在宅の利用者家族

- *その方が濃厚接触者に認定されたら、その待機期間とかは、「お休みしてくださいね」ってなりますけれど。**その濃厚接触者でなければ、違う事業所にその間行くのは何も問題ない**かと思います（略）今はもうね、どこでも、「しょうがないよね」っていう状況になってるんですかね*［CM］

> *研修とか受けて正しい知識を受ける中で少しずつ変わっていかれたのかなっていうのは思いますが、最初はやっぱりコロナがみんなが怖いだけで、**もうとにかく危ないところには近よらないっていうスタンスのところが多かったんですけども、そうではいけないっていうことで、まあ一年前とはちょっと状態は変わってきてるかな**というふうには思います*［市社協］

- *いまだに、ちょこちょこっと。どこからともなく、利用者さんから「陽性になりました」とかあるので。**いつうつってても、それで自分がうつしてるのかも分からないんだなっていうのは、今も思います***［CM］

＜職員＞と地域社会－2022年2月　職員の語りから

- *（ご近所）もうコロナにかかってしまったって言うたから、「ああ、そうなんや」みたいな感じでは。そのときも結構感染者数増えてたんで、**そんなに気にはしてなかったんかな***［副主任］
- *まあだいぶ流行ってきて、数もだいぶ増えてきてる時期ではあったので。周囲の反応的には、**１回目に比べたら薄かったのかな**というふうに、自分では思います*［サブリーダー］
- *２月のときは、あんまり変わんなかったですね。**普段と変わりなかったですね***［ユニットリーダー］

COVIDと介護施設のジレンマ

- 高齢者における新型コロナウイルス感染症（COVID）の重症化や死亡の割合が、他の年齢層に比して極めて高い。
- 高齢者介護施設で新型コロナウイルスに感染し、死亡に至ったケースも多い。
- 高齢者をCOVID感染から守ることが大きな課題としてつきつけられた。

  ①公衆衛生のロジック（感染予防、集団レベルでのリスクの最小化）と②ケアのロジック（日々の介護における個々の利用者のニーズに答えること）のはざまでの緊張・ジレンマ（奥・島薗 2021, 2022）。

「危機」としてのCOVIDのクラスター感染

- 高齢者入所施設におけるクラスター感染と「危機」
  - 介護スタッフの感染による人員不足
  - これまで経験のない感染対策（ゾーニング、PPEの着用）、それを実施しながらの高齢者介護に伴う肉体的・精神的負担
  - 公衆衛生のロジック／ケアのロジックのあいだの緊張・葛藤の先鋭化
  - それ以外のクラスター感染発生にともなうさまざまな緊張、葛藤、軋轢やジレンマ

職場と家族のはざまの葛藤

職場

- クラスター感染の発生は、入居者だけでなく介護スタッフのなかにも感染者（検査結果が陽性となる人々）も出てくる。
- 感染していない（検査結果が陰性の）スタッフは、通常より少ない人数で、普段より負担の多い仕方で介助をしなければならなくなる。

家族

- 感染による介護スタッフの健康への不安
- 自分から感染し、家族の健康がおびやかされることへの不安が脅かされることへの不安（基礎疾患をもつ人、高齢者と同居など etc)
- 家族が感染してしまうことによって、職場（多の介護施設、会社）や学校で他人を感染させてしまうことへの不安

家族状況や施設内の地位によって、さまざまな葛藤を抱えながら、クラスター感染に対応する

小池さん（仮名）

40代・男性
フロア副主任

COVID感染を心配する家族と施設で背負う責任のはざまでの緊張

2020年［１回目のクラスター感染]は、２階でクラスター起こってたんですけど。そのとき３階の方で働かせてもらってて、一応３階の方をとりあえずまとめて。

クラスターで人数減ってたので、向こうに行ってくれてる職員抜きで、３階を回すようにさしてもらってて。僕も最初「２階に降ります」って言うたんですけど、ちょっと奥さんの方から、「行かんといてくれ」と言われて。

僕も次の日からそこの夜勤入ろう思ってて、施設長にお願いされて。奥さんに話すと、やっぱり「子どもいるし、そういうとこ行かんといてほしい」みたいな。

奥さんにも、「うちでクラスター出てしまったし、やっぱり役職とかもついてるから。まあ、あかんし」っていうのは、説明さしてもろうたんですけど･･･コロナっていうのが、まだよく分かってない状態だったので。それで死者が出たとかっていうニュースも、出たことがあるんで

小池さん（仮名）

40代・男性
フロア副主任
妻、子ども２人と４人暮らし

COVID感染を心配する家族（妻）と副主任としての責任のはざまでの緊張・葛藤

島薗：　なるほど。そういった私生活というか、家庭内での制限って、どのぐらい精神的に大変なものなんですか？

小池：　僕はそうでもなかったんですけど、やっぱり奥さんからしたら、家にはいるのに、子どもの面倒とか見れへんのは、やっぱりそれはそれでストレスやったみたいで。最後の方はやっぱり怒ってました。

島薗：　怒ってる、怒られた･･･自分が何もできない、しようがないのに、なぜ怒られるんだっていうような

小池：　それやったら、もう一緒にいたらいいんちゃうか思いながら、ずっと隔離させられてたんで。子どもがけんかしたりとかしてる間も、やっぱり止めに行ったりとかもできひんし。お風呂とかも、結局奥さんが全部。僕いるけど、１人で対応したりとかしてたので。やっぱりその負担が結構･･･。特にすることないから、ずっとゴロゴロして。それがやっぱり、ちょっと奥さんからしたらいかんかったかなっていうのが ･･･

森田さん（仮名）

30代・女性
ユニット・リーダー
在宅療養する末期癌の父と
２人暮らし

父への感染の心配とユニット・リーダーとしての責任のはざまの葛藤・緊張

森田：　ほんまに最低限の人数しか残ってない状態で、回るように仕事をしてたので、誰か一人欠けたら、もうたぶん業務が回らへん状況の中で働いてたんで。だからもう、できる限り出勤しようっていうの、みんな結構思っててくれてて。出勤してる人が結構多かったんですよ、やっぱり。そうだから、みんな頑張ってくれてるので、私も頑張らなと思って［･･･］。

［中略］

森田：　私も上司からは、別に「外れていいよ」とは言われたんですけど。私は自分で「出勤します」って言ったんですよ。体調不良とか、出勤してこれへん職員さんが増えるのなんとなく予想はついてたので。そうやって私がやめた分、やめてしまった分、余計仕事回らへんし。［･･･］お父さんにうつすかもしれへんという不安はあったんですけど、それでもやっぱり仕事を選びました。［･･･］やっぱり自分はユニットの責任者であるし。やっぱり自分が休んでしまうと、下の職員に示しがつかへんし。下の職員が頑張ってくれてるのに、自分が休むわけにいかへんっていうのも思って。

森田さん（仮名）

30代・女性
ユニット・リーダー
在宅療養する末期癌の父と２人暮らし

父への感染の心配とユニット・リーダーとしての責任のはざまの葛藤・緊張

森田：　うちの父親［の感染が分かったのは］が２月27日ですね。家に帰れず、調子悪そうで全然起きてこうへんから、見に行ったら、すごいしんどそうにしてたので。救急車で運んだら、結局コロナの感染が分かって。そこから私もずっと、家で隔離されてた状態やったんですよ。だから結局、私が出勤したのは、もう落ち着いてだいぶたったころに出勤してるので。その間の様子、いまいちよく分からないんですけど。

島薗：　なるほど。２月27日からは、しばらく森田さんはお休みされていたということですか。

森田：　自宅にずっといました。［･･･］最初濃厚接触者やったんですけど、結局３月２日に検査をしたら、私も感染をしてて。

［中略］

森田：　一応接触せんようにとかは、ご飯とかは私が作らなあかんかったんで、作ってたんですけど。一応接触せんように気をつけてはいたんですけど、やっぱり感染予防が、やっぱり十分じゃなかったから。それはすごく自分を責めました。私がうつしてしまったっていう、その後悔はだいぶ残りましたね。

手はちゃんと洗って、手を清潔にはしてたんですけど。やっぱりどこかで、やっぱり体に付いてる部分が、ウイルスとかも、やっぱりちゃんと払えてなかったのかなとか。後になって、やっぱりそういうのが、してなかったなあと分かって

森田さん（仮名）

30代・女性
ユニット・リーダー
在宅療養する末期癌の父と２人暮らし

父への感染の心配とユニット・リーダーとしての責任のはざまの葛藤・緊張
≈

島薗：　働き続けるっていうことについて、お父さんと相談されたりとか、そういうようなことはあった？

森田：　お父さんには一応、お世話をするとは言ったんですよ。 お父さんも別になんも、反対もしませんでしたし、逃げるのはよくないと、お父さんも言ってたので。･･･前も「そりゃそうや」言うて、結構お父さん、そういうの嫌いなタイプやったので。責任感、真面目というか。働くことに関して、反対はしなかったんですよ。

島薗：　そうですか。なるほど。とはいえ、実際に感染が分かったときっていうのは、かなり複雑なお気持ちだったんじゃないかと推察するんですけど。

森田：　正直、自分が殺してしまったなっていうのは、やっぱり思いましたね。それでなんかあったら、いくら余命を、癌が余命宣告受けていたとはいえ、もうちょっと長生きできたんじゃないかとか。やっぱり自分を責めましたね･･･やっぱり。

島薗：　そうですか。それはだけど、かなりおつらい経験だったんじゃないかと思うんですけど。立ち直るのにも、時間がかかりそうな。

森田：　そうですね。いまだにやっぱり、ちょっとやっぱりましにはなりましたけど。たまにやっぱり、つらいですけどね。 [･･･]やっぱりお父さんの忌引きが明けて、復帰したとき、ほんまにもう、今みたいに全然笑ってなかったですし。ぼーっとしてたし。だいぶ周りに迷惑はかけてて。今は、だいぶまだましなって、普通に働けるようなったんですけど。

施設内の緊張

クラスター感染という危機を経験することは施設のスタッフを団結させることもある。同時に、施設の内側に新たな亀裂を生み出したり、ある潜在的な緊張を顕在化させる可能性もある。

感染予防を重視する人⇔ケアを重視する人

レッドゾーンで働いた人⇔グリーンゾーンで働いた人

継続的に働いた人⇔ COVID感染や家族の事情で働けなかった人

吉村さん（仮名）

30代・男性
主任
介護職歴：●年
家族：妻、子ども

普段は管理職だが、2020年８月も2022年２月もレッドゾーンに入ってケアをする。

吉村：　まあ不満というか、コロナの期間中に休んでおられた職員、入院とか濃厚接触とかで、出勤ができなかった職員とかは。復帰と同時に、なんていうんですかね。かなり気持ち的にも落ちてましたし、申し訳ないなっていういうふうな感じで、もう今にも辞めそうな感じの表情の職員が、多かったんですけど。現場にいた職員からしたら、そこは別に気にしてなくって、とにかく元の体制に戻りたいっていう気持ちが、すごく強かったんですけど。なかなかそこに行きつくまでに、時間がかかったので。こっちからしたら、そんなに気にしてないけど。
（中略）

おそらく半年くらいしたら、だいたいなんていうんですかね。元の感じには戻ってきたかなと思うんですけど。例えば、いまだに職員それぞれで、職員同士の気持ちの行き違いとか、そういうのは引きずっているような感じはします。そんなに表面化することでもないですけど。

島薗：　ええ。でもそういう気持ちの行き違いっていうのは、表面化しないとしたら、どんな場面で、感じられたりするもんなんでしょうか。

吉村：　単純に仲が悪くなったりとか。そんなん僕からしたら、そんなん怒ることじゃないやろっていうことでも、ちっちゃなことでもすごく腹を立てていたりとか。そうですね。ちっちゃないざこざが、すごく増えたような気はしますね。

四谷さん（仮名）

30代・男性
主任
介護職歴：●年
家族：妻、子ども

普段は管理職だが、2020年８月も2022年２月もレッドゾーンに入ってケアをする。

島薗：　濃厚接触者で、しばらく出られなかったりだとか。あるいはご家族のこともあって、あんまり復帰できなかったりとか。そういったようなことっていうのは、また元に戻った後で、何か影響があったり、尾を引いたりっていうようなことは、何かあったりしましたか？

大久保：　そうですね。やっぱり最初からやってた職員と、途中から復帰した職員と、自宅待機２週間、施設の状態も落ち着いてから、復帰してきた職員と。３つの中でも、価値観じゃないですけど、考え方というか、やっぱり気の持ち方っていうのは、まあ全然違うかな。

島薗：　そうですか。

大久保：　うん。やっぱり最初からやってる職員、働いてた職員に関しては、やっぱり危機感はすごいあります。対策、予防に関しては、やっぱりすごく徹底して、強くて。１週間後から復帰してきた職員も、まあ最初からいてる職員に比べると、まだ意識的には低い部分もあるんですけど。やっぱりそういう部分の意識は、強くなったかなっていうところは、あったけど。やっぱり２週間自宅待機して、大変なときを知らない。状況を知らないまま復帰ってなってしまうと、やっぱりその感染の、やっぱり薄かったりとか。「そんなに大変やった？」みたいな。

結語

COVIDパンデミックは、介護現場で働く人々にさまざまな困難をもたらした。

とくに、クラスター感染は介護施設の「危機」であり、さまざまな緊張、葛藤、軋轢が顕在化することが明かになった（eg. 介護施設／地域社会のあいだ、職場／家族、介護現場の職員間）。

介護現場の内外で、介護現場や地域社会のあいだで苦難（パッション）の経験を語りを通じて共有することは、コンパッションに満ちた介護現場や地域社会を創り出していくための重要なステップとなりうるのではないだろうか。